

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

						自己評価		学校名(京都市立楊梅幼稚園)	
						評価日	平成28年3月1日	学校関係者評価	評価日
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いざれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
						分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に による意見	学校運営協議会・学 校評議員による改 善に向けた支援策
1	保育	夢中になって遊びこむ子どもの育成	1人1人の遊びの充実を目指した環境構成の充実・子どものみどり・遊びの充実	一人一人の遊びの姿の変容日々の記録	一人一人の遊びの充実を目指した環境構成の充実について園内研修を進めている。	⇒	・一人一人の遊びの充実や保育環境、子どものみどりについては、引き続き研修の充実を図り改善していきたい。また、時間確保の工夫や計画的に運営していくことが課題であった。・個々に人とかかわる力は伸びてきている。 ・連携面については工夫が必要。今後も保護者とともに子育てをしていく姿勢を大切にしていきたいと思う。 ・今後もホームページの工夫や新鮮な情報が提供できるよう努めていきたい。	⇒	・生活発表会を観察した。各年齢のそれぞれの育ちを感じた。 ・一人一人の子どもが夢中になれる遊び、好きな遊びを見つけていくことが大事である。
		コミュニケーション力の育成	話したくなる、聴きたくなる関係づくりの構築	自分の思いを言葉で伝えたい思いが育ってきている。人の話を聞き、相手の思いを受け入れたり提案をしたりして遊んでいる。	思いを言葉で伝えたい思いが育ってきている「そう思う」保護者割合97%人の話を聞く態度が育ってきている。相手の思いを受け入れたり提案をしたりして遊んでいる「そう思う」保護者割合91%		・計画的に研修時間確保の改善を図り、さらに保育環境・園内研修の充実に向け取り組んでいく。		・今後も実際の子どもの姿を見られるこのような機会があるとよいなと思う。
		人とかかわる力の育成	互いに認め合い支え合う集団づくり・異年齢交流(園児・未就園児・小学生など)・校種間連携・地域との連携	友達とかかわることや友達と一緒にあそぶことを楽しんでいる。幼稚園は、異年齢交流・校種間・地域・家庭との連携を大事にしている。	友達とかかわることや友達と一緒にあそぶことを楽しんでいる「そう思う」保護者割合90%幼稚園は、異年齢交流・校種間・地域・家庭との連携を大事にしている「そう思う」保護者割合100%		・今後もホームページの工夫や新鮮な情報が提供できるよう努めていきたい。		
2	豊かな心	豊かな体験活動から豊かな感性の育成	自然環境・自然体験の充実・園外保育 小動物とのふれあい・伝統文化にふれる	子どもたちは、様々な体験活動を通して、豊かな心が育ってきている。幼稚園で様々な体験活動を通して心を動かして遊んでいる。	「そう思う」回答97%	⇒	・友達や異年齢児のかかわり、小動物とのかかわりなどから相手に寄り添い思いやりの心が育まれている。 ・幼稚園生活の体験活動を通し、心が動いている。豊かな心が育ってきていると多くの保護者が感じている。今後も豊かな体験ができる工夫を続けていきたい。	⇒	・幼稚園にいくことが楽しいと思えることが大事。 ・一人一人のよいところを見だし安心して自己を発揮できるようにするこれが大事である。
		思いやりの心	日々の生活や遊びの中での指導 素地指導	他者への思いやりの心が育ってきている。日々の保育記録の分析	他者への思いやりの心が育ってきている「そう思う」保護者割合100%		・子どもたちにとって豊かな体験となっているのか、必要な経験・体験を見直し今後の保育に生かしていく。 ・見えにくい集団での子どもの様子を見てもう機会を増やすなどの検討を図る。		・豊かな体験につながる様々な行事は大切である。園の行事等で更に協力できる場があればしていきたい。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立	家庭との連携 保護者への啓発 個に応じた丁寧な指導、援助	早寝早起きなどの生活リズムを整えている。栽培や収穫、食会など幼稚園生活を通して食への興味・意欲が育ってきている。	早寝早起きなど生活リズムを整え生活している「そう思う」保護者割合78%自分のことは自分でできるようにかかわっている「そう思う」回答	⇒	・家庭により意識の確立については、家庭による保護者意識の違いが見られる。改善の工夫を保護者とともに考えていく。 ・食に関する意識は、幼稚園生活を通して興味・意欲が育てていると感じておられる保護者も多く見られた。今後も家庭と一緒に増していく。 ・体を動かして遊ぶことを意識して計画的に保育に取り入れている。保護者の幼稚園生活を通して体力がついてきている「そう思う」保護者割合100%。計画的に保育にも取り入れている。	⇒	・子どもたちの家庭での生活は家庭が管理することになる。保護者への啓発の取り組み方にについて工夫が必要である。
		進んで体を動かして遊ぼうとする子どもの育成	小学校の中にある広い立地環境の活用 計画的な保育・園外保育の充実	体を動かして遊ぶことを楽しみ、幼稚園生活を通して体力がついてきている「そう思う」保護者割合100%。計画的に保育にも取り入れている。	体を動かして遊ぶことを楽しみ、幼稚園生活を通して体力がついてきている「そう思う」保護者割合100%。計画的に保育にも取り入れている。		・家庭により意識に違いが見られる。家庭と幼稚園が連携して一緒に進めていくように考えていく。 ・引き続き保育計画に位置付け取り組んでいく。		・睡眠時間が短い子どもが増えてきている。 ・家庭の生活や保護者の意識に違いが見られる。
4	独自の取組	幼小連携の充実	計画的・継続的な幼小連携の取組 教師間連携の充実	教師間の交流前後の研修・子どもの具体的な姿から互いの学びあい	事前事後の話合いから具体的な子どもの姿を通して学び合うことができた。	⇒	・幼小連携については、見直しを図ったことで昨年よりも充実していたが共通理解が難しい面もあった。 ・未就園児教育相談については、週の回数は減らしたが1回に集う人数が増えた。預かり保育については、参加者も多い。 ・情報発信については前期よりも評価が下がっている。 ・親子読書を推進するだけでなくその意味や願いを更に伝えていく。	⇒	・近くに住まっている楊梅幼稚園の存在をまだ知らない方もいる。 ・楊梅幼稚園・醒泉小学校の幼小連携の取組は自園の大きな魅力である。
		子育て支援の推進	預かり保育の充実・教育相談の内容充実・園庭開放の充実・情報発信	預かり保育・教育相談・園庭開放参加人数	水曜日の預かり保育利用数が当初より増えている。未就園児教育相談たまご組では、0歳児の参加が増えている。1回に集う人数が増えています。		・交流については、互いの校種内での共通理解が必要であり改善していくとともに、交流に終わらず互いの教育理解を深めていきたい。 ・子育て支援の取組では、人が集う広報活動の工夫を考えていいく。 ・情報発信では、今後も保護者とのコミュニケーションを大事に取り組んでいく。またホームページで新鮮な情報が提供できるように努める。 ・親子読書を推進するだけでなくその意味や願いを更に伝えていく。		・広報活動、園の教育活動発信の工夫を推進してほしいし、支援していきたい。 ・楊梅幼稚園・醒泉小学校の幼小連携の魅力を今後も生かしアピールしていく必要がある。
		情報発信の充実	降園前の伝達・園の便り・ホームページ・楊梅だより・懇談会・面談など	ホームページやお便り、降園前の話などから幼稚園の遊びや生活の様子がわかります。	「そう思う」保護者割合100%				
		親子読書	100冊読書の親子取組、読書ノートの活用	親子で絵本を楽しんでいる。読書ノートの活用状況	親子で絵本を楽しんでいる保護者「そう思う」回答結果88%読書ノートの取組においては家庭により異なる。				

4 総括・次年度の課題

- ・子育て支援の未就園児の教育相談の内容を充実させ、魅力的な取り組みを増やすとともに引き続き幼稚園の広報にも努める。
- ・学校運営協議会の方々と幼稚園とのかかわりを更に深め、幼稚園教育の発信・地域に閉かれた幼稚園となるように取り組む。
- ・保育充実に努め、新しい生活への期待へと思いをつなぎ楊梅幼稚園の良さを継続させる。

